

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第289回

竹野内 豊

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年1月25日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

『役者とはなにか』  
なんて  
一生わかんないと思う。

竹野内 豊は、日本の俳優。埼玉県所沢市出身。研音所属。

## Column

今回の言葉を聞いて『プロなのにわからないまま役者やってるの?』と思う人もいるかもしれませんが、私は彼がこの言葉を発した真意としては“一生を賭けて向き合い続けても答えに辿り着けないくらい『深い』ものだ”ということなのだろうと捉えました。

俳優という仕事のみならず、すべての物事は追求すればするほど非常に奥深いものであると思います。例えばみなさんが現在通っている『高校』も非常に奥が深いところです。学問を学ぶことはもちろんですが、スケールとしては実際よりも小さいものの、学校やクラスという“社会”の中で生きるということ学ぶ貴重な機会の中で毎日を過ごすことができる場所です。“将来を見据え、自分自身をどのように磨いていくのか”少しでもそういった意識の中で学校生活を送っていくことによって、学生でありながら社会人としての心構えを学ぶことができると思います。これは考え方によっては学問を学ぶことよりも重要なのかもしれません。また、“多感な年頃”と表現される高校生というこの時期に、日々移り変わる感情の中でもがきながら進もうとする仲間と様々な経験を通じ、自分自身の事も含めた『人間』というものを理解していくための場所としても、高校とはみなさんの今後の人生において非常に重要な機関であると言えます。そういう意味では、義務教育ではない教育機関で過ごすということは受け身だけでは得られることや情報は少ないということを理解しておくこと、自ら学び取る意欲や覚悟が必要なのだ改めて感じると共に、みなさんに伝えておきたいと思います。

スポーツの世界に携わっている私は、引退するプロ選手などが引退の挨拶の時にこれまでの競技生活や競技そのものを人生に例えることを思い出します。人生を賭けて打ち込んできたことであり、引退することでまた新たな人生がスタートし、その人生の中で挑戦や喜びや悲しみを味わうのだろう。苦しいことも待っているとわかっていながら、せつなく今やっとの思いでひとつの大きなことをクリアしたばかりなのに飛び込もうとしているのだと思うと、『深い!』と感動します。深い人生にもっとどっぷり使って豊かで素晴らしいものに発展させていきたいものですね!